

## 西濃農林事務所の普及活動状況 令和6年8月

### 今月の重点活動

#### ■キャベツ スマート農業機械による省力実演会の開催

8月21日、養老町室原地区で農事組合法人が管理する加工業務用キャベツ栽培ほ場において、直進アシスト機能付きトラクタを使用して施肥・施薬とうね立てを同時に行うスマート農業機械による実演を行った。

実演に当たり、農業者や管内の教育機関・市町・JA及び農林事務所で開催する西濃地域スマート農業研究会（事務局：農業普及課）が関係機関との調整を図った。

今後、収穫に向けて2回の実演が予定されており、加工業務用野菜の課題解決と産地化に向けて継続支援を行う。



【実演会での試乗風景】

### ぎふ農業・農村を支える人材育成

#### ■土地利用型作物・担い手 大垣営農協議会総会の開催

8月2日、西美濃農業協同組合本店ふれあいホールにおいて、JAにしみの大垣営農協議会第8回総会が開催された。全ての議案が承認され、総会の後、各関係機関から情報提供が行われた。

農林事務所は、水稻の高温対策として施肥や水管理、また特にカメムシ被害やウンカ類の飛込が懸念されるため、適期防除を指導した。

全農からは同対策やリゾケア種子、JAからは米の荷受けの留意事項・収入保険、大垣市からは生産調整について情報提供が行われた。

今後は、良質米生産に向けた適期収穫に向けて、関係機関とともに支援を行っていく。



【総会の様子】

#### ■担い手リーダー 有機農業の先進地視察の実施

8月28日、管内の担い手リーダー（指導農業士・青年農業士・女性農業経営アドバイザー）は、西南濃農業普及事業推進協議会と共催で、今後の有機農業の推進に向けた先進地視察（三重県伊賀市）を実施した。担い手リーダー、市町、JAにしみの、農林事務所計12名が参加した。

最初に、有機農業の普及・教育・認証等を行う「公益社団法人全国愛農会」にて、室内研修を受講した。その後、同法人が設立・支援する全国唯一の私立農業高校「愛農学園農業高校」を見学した。

午後からは農家13名が共同で生産・販売するNPO法人を視察した。有機農業に取り組む法人や生産者の意見には興味を惹かれることが多く、質疑応答が盛んに行われた。農林事務所は、有機農業の推進の一助となるよう、事務局として企画・支援を行った。



【説明を受ける様子】

## ■農福連携 農作業動画(小松菜・葉ねぎ)の撮影

7月31日、ぎふ農福連携推進センターと連携し、農作業動画の撮影を行った。

下宮青果部会協議会の主要品目(小松菜・葉ねぎ)における、一連の出荷作業(洗浄、下葉除去、計量、袋詰め等)について、注意点(計量のg数等)を聞き取りながら、撮影を進めた。

動画はセンターのホームページに掲載され、障がい者就労支援事業所が受託する農作業内容を事前に検討することができる。

次回は秋にハウスでの作業内容を撮影する計画であり、農林事務所は継続して支援していく。



【撮影の様子】

## ■冬春トマト 重点指導対象者 個別経営支援

7月下旬から8月下旬にかけて、農業経営者法人化等総合サポート事業を活用し、3名のトマト農家に個別経営支援を実施した。

それぞれの相談内容に応じた専門家、ぎふアグリチャレンジ支援センター、JAにしみの担当職員および西濃農林事務所が出席し、経営における課題の聞き取りや課題解決に向けた方策について話し合った。

生産者はそれぞれの農業経営における課題等について積極的に質問しており、有意義な意見交換を行うことができた。

農林事務所では、ぎふアグリチャレンジ支援センターと連携し、担い手農家の抱える様々な課題の解決に向けて支援を行っていく。



【打ち合わせの様子】

## 安心して身近な「ぎふの食」づくり

### ■みかん ドローンによる農薬散布

南濃みかん部会では、7月26日、ドローンによる農薬散布を行った。

ドローンによる農薬散布時間は、準備を含めて10a当たり30分未満となり、傾斜地が多いみかん園での動力噴霧機による手散布(慣行)に比べ、大幅な省力化につながった。9月には2回目の防除を予定している。

また海津市は、ドローン防除に係る農家負担に対し、今年度から補助金を創設した。

果樹では、かんきつ類で最もドローンによる農薬散布が進んでおり、南濃みかんも産地を維持・発展させるために、ドローンによる農薬散布を推進していきたい。



【ドローン農薬散布の様子】

## ぎふ農畜水産物のブランド展開

### ■だいこん だいこん部会反省会の開催

8月6日、牧園芸組だいいこん部会の反省会が開催された。

秋冬だいいこんは、出荷量53.6t(前年比99.7%)に対し、平均単価81.7円/kg(前年比137%)の高値実績となった。また、管内3名が生産する祝だいいこんは、前年よりも出荷数量が増加した(7.4t)。

春だいいこんは、3月の低温や5月頃の急激な天候変化の影響を受けて出荷量が不足し、出荷量70.7t(前年比73.9%)、平均単価109.9円/kg(前年比134%)の販売実績となった。

県内におけるだいいこん生産量は5年前と比べると約半数まで減少し、量販店からは地元産の出荷が求められている。農林事務所では、今後の秋冬だいいこん及び祝だいいこんの生産に向けて、台風対策や被害が懸念される病害虫対策等の栽培支援を行っていく。



【反省会の様子】